

福島県楡葉町 私たちのいま

…3. 11からの写真展@会津美里町…

日時：2013年3月20日（水・祝）～21日（木）10：00～16：00

場所：会津美里町宮里 楡葉町仮設住宅敷地内 北集会所

ふるさとを離れなくてはならなかった。
遠く会津美里町で暮らしはじめた。
2011年の桜は会津若松で見た。
生い茂った雑草に呆然とした一時帰宅。
はじめての雪かき、はじめて見たツララ。
前を向いて歩いていく子どもたち。
卒業の涙、入学の笑顔。
それぞれの日常が映し出した写真。
避難のなかの暮らしの物語。



企画：楡葉町写真プロジェクト（立教 SFR 重点領域研究・大規模複合災害研究グループ）

写真展の企画・開催趣旨

楡葉町はいま

福島第一原発から 20 キロ圏にある楡葉町は、2011 年 4 月 22 日から 2012 年 8 月 10 日まで警戒区域に指定され、自由に立ち入ることができませんでした。現在も、楡葉町は避難指示解除準備区域になっており、楡葉の家に「宿泊」することはできません。

会津美里町と楡葉町

2011 年 3 月 11 日。東日本大震災で、楡葉町は震度 6 強の揺れに襲われました。押し寄せた津波が海辺の家々と尊い命を飲み込みました。そして翌 12 日、福島第一原発事故で、楡葉町の人びとは町役場ごといわき市に避難を余儀なくされました。原発事故が深刻さを増すなか、楡葉町は姉妹都市である会津美里町に受け入れを要請し、3 月 16 日から段階的に避難を開始しました。

会津での避難生活

会津美里町の体育館や構造改善センターなどに避難した人びとは、4 月になると、新鶴温泉（会津美里町）や芦ノ牧温

泉（会津若松市）、湯野上温泉（下郷町）の宿泊施設に二次避難しました。7 月になり、会津美里町の仮設住宅への入居がはじまりましたが、故郷に近い場所で生活することを選んだ人びとは、いわき市に避難先を求めました。その頃に出合った男子高校生がつぶやくように語りました。

「——いろんなものをなくしたと思います。故郷とか。」

言葉の力と写真の力

震災・原発事故からの復興と再生は、被災した人びとの生活再建と人生の再構築と無縁ではありません。楡葉町のある人は「生活のスタイルは生き方そのものだ」と語り、またある人は「自分らしく生きるための選択肢が欲しい」と語りました。個々の生活や人生を取り戻すために何が必要とされているのか、そもそも避難生活とはどのようなものとして経験されたのか。楡葉町の皆さんの言葉と写真の力を借りて、今一度、復興と再生の諸施策の基本理念を考えてみたいと思います。

○写真展は立教 SFR 重点領域研究グループ、大規模複合災害研究グループが調査研究の一環として開催しております。3.11 以後に撮影した写真をご提供くださる方や、被災後のお話を聞かせて下さる方、写真展の自主開催を考えて下さる方を歓迎しております。

連絡先：関礼子 携帯：090-2872-0959、e-mail seki@rikkyo.ac.jp